

## 3-15. 宇陀夢創の里（奈良県宇陀市）

### (1) 地域の概要

---

**【人口】**

33,113 人

**【地勢】**

本市は、奈良県の北東部に位置し、北は奈良市、山添村、西は桜井市、南は吉野町、東吉野村、東は曾爾村、三重県名張市に接しています。本市の総面積は247.62km<sup>2</sup>で、県全体の6.7%を占めています。近鉄大阪線によって、京都・大阪方面や名古屋・伊勢方面と結ばれており、また、大阪方面から本市への自動車によるアクセスは、名阪国道針インターチェンジと大阪・松原ジャンクション（西名阪自動車道）とが約1時間で結ばれる距離にあります。

**【面積】**

247.62 km<sup>2</sup>

**【気候、自然】**

本市の気候は、内陸性気候であり、冬は季節風の影響を強く受けるため、寒さが厳しい一方で、夏は冷涼となっています。降水日数も多く、年間降水量は約1,500mmとなっています。平成24年は気温：平均12.7℃、最高34.0℃、最低-8.4℃、降水量1619.5mm、日照時間1697.2時間

**【歴史】**

この地域は、「古事記」「日本書紀」等の歴史書のなかに記載がみられ、また「万葉集」では柿本人麻呂の「かぎろひ」の歌等にも詠まれており、これらのことから古代における王朝との関わりをうかがうことができます。平安時代以降、この地域は荘園として興福寺の支配下にありました。南北朝時代から戦国時代にかけては、伊勢国司北畠氏の勢力を次第に受けるようになりましたが、その後江戸時代には宇陀松山藩として織田氏4代の統治の後、幕府の直轄地となりました。

この地域は大和と伊賀・伊勢を結ぶ東西の交通の要衝であり、室町時代に始まり江戸時代に盛んになった庶民のお伊勢参りのルートにあたり、宿場町として繁栄しました。維新後、明治元年に奈良県（明治元年～2年の一時期は奈良府）となりますが、明治9年に奈良県は堺県と合併、さらに明治14年には大阪府に併合されます。明治20年に晴れて大阪府から独立し再び奈良県が設置され、この地域は宇陀郡に属することとなりました。

明治22年の町村制の施行により、宇陀郡は1町11村から構成されることとなりました。

その後の各町村の沿革については、以下のとおりです。

旧大宇陀町は、昭和 17 年に松山町・神戸村・政始村・吉野郡上竜門村が合併して誕生しました。旧菟田野町は、昭和 31 年に宇太町（昭和 10 年に宇太村が町制を施行）と宇賀志村の合併で誕生しました。旧榛原町は、昭和 29 年に榛原町（明治 26 年に榛原村が町制を施行）に伊那佐村、さらに昭和 30 年に内牧村の編入合併、昭和 44 年 4 月に桜井市の柳・角柄を編入して誕生しました。旧室生村は、昭和 30 年に室生村・三本松村・山辺郡東里村が合併して誕生しました。

平成 17 年：2005 大宇陀町、菟田野町、榛原町、室生村の合併協定調印。

平成 18 年：2006 1 月 1 日に合併により「宇陀市」が誕生。

### 【観光】

枝垂れ桜（大野寺、西光寺の城之山桜）、 スズラン（向渕）、紅葉（室生寺）  
しやくなげ（室生寺、弁財天石楠花の丘）、ササユリ（深野）

<http://www.city.uda.nara.jp/kankou/index.html>



<http://www.city.uda.nara.jp/shoukoukankou/kankou/kankou/map/murou-jimusho.html>

<http://www.city.uda.nara.jp/shoukoukankou/kankou/kankou/map/spot.html>

【地域資源の概要】 指定文化財 55（国）、38（県）、19（市）

<http://www.city.uda.nara.jp/bunkazai/kyouiku/bunka/bunkazai/ichiran.html>

## (2) アドバイザー派遣申請の背景

### 1) 地域課題

宇陀市室生区大野地区では過疎化が進み、休耕地が増加しており、大野地区及び周辺地域の自然環境保護と里山を再生、保全することが喫緊の課題となっている。

### 2) これまでの取組

地域振興・まちづくりのために、休耕地を活用した農薬や機械に頼らない野菜作

り、稲作等を進めてきた。さらに、旧保育所を活用して、文化講座、配食サービスなどの活動を拡大してきた。

しかしながら、活動は個々人の奉仕に頼っているために事業継続が危うく、都会の人々にこの周辺地域の自然、文化（里山）を知ってもらい、訪れてもらうことが重要でエコツアーの企画方法及び集客方法等の能力を身につけて、持続可能な事業とすることが課題となっている。

### (3) アドバイザー派遣の概要

日	時	平成 26 年 12 月 15 日（月）～平成 26 年 12 月 17 日（水）				
場	所	奈良県宇陀市（室生地区） 夢創の里、大野寺、向湊地区、龍穴神社、室生寺、室生山上公園芸術の森、深野地区				
ア	ド	バ	イ	ザ	ー	観光・地域づくりコンサルタント 緒川 孝弘 氏
参	加	者	合計 15 名			
スケジュール・方法	<p>【1 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・概要説明及び現地視察：室生地区、深野地区、向湊地区、夢創の里・大野寺（大野地区）、すずらんの群落（向湊地区）、龍穴神社・室生寺（室生地区）、室生山上公園芸術の森（室生地区）</li> </ul> <p>【2 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要説明及び現地視察：室生、深野、向湊地区、ささゆり保護地区（深野地区）</li> <li>・基礎講座及び意見交換： 「室生を未来に伝える 新しい観光による地域振興 エコツーリズムの可能性」</li> </ul> <p>【3 日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップ：「エコツアーづくりの基本的な考え方」</li> <li>・実地講習と 3 日間のまとめ</li> </ul>					

### (4) アドバイスの内容

#### 1) 現地視察

現地に案内し、その地の観光資源（景観、自然、動植物、歴史、芸術等）に関して説明した。「その地が持つ価値を見逃さず、様々な角度から再評価して明確にすることが必要である」とアドバイスを受けた。詳細はまとめに記載する。

#### 2) 基礎講座及び意見交換

①エコツーリズム推進法に基づく「エコツーリズム推進全体構想」認定後に実施可能な項目とエコツーリズム推進マニュアルについて説明を受けた。

参考：

<http://www.env.go.jp/nature/ecotourism/try-ecotourism/env/5policy/manual>

.html

## ②エコツアーを体験すること エコツアーの調査

- ・グッドエコツアー <http://www.ecotourism.gr.jp/index.php/get>
- ・エコツアー総覧 <http://ecotourism.jp/>

## ③エコツーリズムの目的を明確にすることの重要性と目的を明確にするための視点 “エコツーリズムの3要素”から明確にする方法。

## ④お客様満足⇔「お客様にとって室生は何か?」「お客様が室生に何を求めているか」 を知るための調査項目、検討項目。

## ⑤「地域の宝」は何か?宝探しの方法、及び「お客様の楽しみ」を特定する方法。

## ⑥エコツアーづくりで最初に考える二つのポイント

- ア. お客様に伝とえたいこと (地域の宝)
- イ. お客様に楽しんでもらいたいこと。

### 3) ワークショップ うだ夢創の里 研修室・農園

#### ①エコツアーの企画作成、基本的な考え方

「エコツアー チェックリスト」を参照しながら「室生エコツアー開発シート」の作成及び意見交換し、以下の具体的なアドバイスを受けた。

- ・最初に「お客様に伝えたいこと」「主なお客様」「お客様が楽しめること」を明確にすることが重要である。
- ・他のエコツアーとの競合など商品化に向けての課題の抽出し解決すること。
- ・料金設定はツアーの価値を評価して設定すること。

#### ②実地講習 場所：うだ夢創の里の農園

現在実施している「稲作体験ツアー」を実施した後アドバイスを受けた。

- ・ツアーの最初と最後に本日の全体内容、行程を説明することの重要性。
- ・安全確保、トイレの状況、自然保護などの注意事項を確実に伝える重要性。
- ・参加者全員に平等に対応できることを確実にすること。

#### ③「お宝マップ」「フェノロジーカレンダー (季節暦)」の作成。

### 4) まとめ

#### ① 宇陀市室生地区には自然、歴史、活動団体・リーダー等は魅力的であり、エコツアーの素材は十分揃っている。また、エコツアーガイドも必要な説明等重要な項目は概ね実施できている。

#### ②室生のエコツアーの魅力、内容を確実に効果的に伝達し、集客できるように発信方法を工夫すること。例えば、

- ・パンフレットは情報が多岐にわたり過ぎて手にとった人が自分のこととして考えることが難しい。会員向けと外部発信向け、ツアー毎の情報発信等目的別に

する。

- ・募集チラシ等は対象を絞ること。(ささゆり観察等はわかりやすい。)

### ③エコツアー企画の注意点

- ・参加者の目線で企画して評価する。評価は、作成した企画案を家族、知人などに評価してもらう。また、他団体が開催しているエコツアーに参加して比較する。
- ・テーマを絞る。稲作体験では農作業、炊飯等“米：コメ”を常に関係させる。
- ・対象者を絞る。参加するためのハードルを下げるための工夫、例えば、サブテーマを設定するなどが必要。
- ・山上公園では隠された宝を発見する楽しみなどがあり、ツアーの魅力を高められる。他にも隠された宝があるか調査すると良い。
- ・室生地区全体の活性化は最終目的として、「夢創の里」はそれを達成するために最初は、先頭に行くこと（トップランナーとなる）が良い。
- ・「夢創の里」がツアー参加者と地元をつなぐコーディネーター役を担うことも選択肢の一つ。
- ・企画は予想外に受けたり受けなかったりするので試行錯誤し、「意外な成功」を大切にすること。
- ・東海自然歩道、室生古道、パワースポット等についても魅力あるツアーが企画できる可能性がある。宝を探すこと。

アドバイス（現地視察、講義、WS：ワークショップ）の様子		
現地視察 大野寺 	現地視察 向淵地区 	現地視察 山上公園芸術の森 
基礎講義 夢創の里 	WS 夢創の里 	実地講習 夢創の里 

## (5) アドバイザー派遣実施の効果

### 1) 参加者や関係者に与えた効果

- ①エコツーリズム、及び地域資源について理解が得られた。
  - ・すずらんの群落の向淵地区、ささゆり保存の深野地区の地域の活動・活動団体の魅力を認識できた。今後の活動への意欲が上がった。
- ②今まで課題としていたことがより明確になった
  - ・地域の魅力及びエコツアー企画の基本の理解不足。
- ③今までの課題に対して取組方が分かった
  - ・エコツアー企画の方法：テーマ・対象者の絞込み。価格設定。
- ④今までとは別の課題が明らかになった
  - ・室生の魅力を充分理解できていない。
- ⑤その他
  - ・室生全体の地区間の相互理解が進んだ。

### 2) 今後期待される効果

- ・各地区の宝＝魅力を再発見することができたので良いところは自信を持って推進できる。一方、気づいていなかった宝＝魅力を生かしたエコツアーの企画ができる。
- ・宇陀市全体でのエコツーリズムの取組に貢献できる。

### 3) 今後の取組

- ・室生の「お宝マップ」及び「フェノロジーカレンダー＝季節暦」を作成して室生の魅力を明確にする。
- ・来年度開催する「エコツーリズム」を作成した「お宝マップ」及び「フェノロジーカレンダー＝季節暦」から企画して実行する。

## (6) アドバイザー派遣実施の効果

---

### 1) 参考となった事項

他団体のエコツアーに関する下記活動

- ・エコツアー総覧 <http://ecotourism.jp/>
- ・高島市 季節暦  
<http://www.takashima-kanko.jp/event/tour.html>
- ・南アルプス生態邑 <http://www.hayakawa-eco.com/>
- ・ささゆり観察会と里山散策  
<http://savejapan-pj.net/sj2014/nara/event/post.html>

### 2) その他感想

- ・日本全体の人口減少について及び、それが生活、エコツーリズムに及ぼす影響に関して認識できた。
- ・お客様目線の大切さを痛感しました。
- ・エコツアーの価格設定。
- ・エコツアー募集チラシ作成。

## (7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

観光・地域づくりコンサルタント 緒川 孝弘 氏

### 1) 地域における取組の現状と課題

#### ①現状の取組

奈良県宇陀市室生地域では、「エコツーリズム」としての取組は未着手ではあるが、廃止された保育園を改装した拠点を中心に 2011 年に活動を開始した団体「うだ夢創の里」（以下「夢創の里」と略）では、自然観察会や耕作放棄地での農業体験など、地域の自然を活用した体験・交流事業を実施している。

また宇陀地域では、他にも向洲地区ではスズランの群生地 of 保全活動、深野地区では、ササユリの群生地の保全活動を実施するグループがそれぞれあり、後者では、都市住民を中心としたササユリ鑑賞会をはじめとして、炭焼きや伝統行事の体験など、都市との交流活動を行っている。

#### ②課題

地域では「エコツーリズム」という言葉を初めて聞いた人がほとんどで、エコツーリズムへの取組は、このアドバイザー派遣事業が端緒となる。

室生地域での今後のエコツーリズム推進の中心となる夢創の里では、農業体験や各種のイベントなどの様々な交流事業だけでなく、地元向けの配食、手作りのパンの製造・販売、ランチの提供、ミシンや英語などの教室など、様々な事業を手掛けており、少ない人員で多忙を極めている印象があった。

前述の各グループの中心メンバーは、大変意欲的で熱意があるため、エコツーリズム推進の当面のスタートアップでは十分であると思われるが、60 代以上の方が多いため、いずれは、地域の歴史や文化に詳しい後継者が必要となってくる。

### 2) 特に魅力を感じた地域資源等

#### ①うだ夢創の里

夢創の里の拠点は、保育園を改装し、レストランやパンの販売、各種教室や展示イベントができるスペースがあるだけでなく、直径 1m50cm の大きなピザも焼ける石窯がある。また耕作放棄地を利用して、米や野菜などをつくる農業体験ができる田畑もある。

これらが、近鉄室生口大野駅から徒歩 10 分の距離にある立地は、非常に魅力的である。自家用車がなくても、鉄道で大阪から 1 時間前後で来ることができるため、都会の人が気軽に農業体験ができる貴重な場所である。

また、電気やガソリンを使わない手動で木製の草刈機や唐箕（脱穀した穀物を精選する農具）など、貴重な農具を保有していたり、無農薬での農業に取り組んでいたり、エコに関心がある層が魅力を感じる場となっている。



## ②室生山上公園芸術の森

「室生山上公園芸術の森」は、面積 約8ha にも及ぶ広大な野外美術館である。世界的に著名な芸術家であるダニ・カラヴァン氏が、公園内の個々の作品から、公園全体に至るまで設計して製作しており、公園全体が一つの作品であるとも言える。公園全体及び個々の作品は、地域の自然や文化のコンテクストを踏まえて、芸術家による緻密な計算がなされており、四季折々及び日々の昼夜の自然の移り変わりによって、様々な表情を鑑賞することができる。

この公園は、野外美術館として世界的にも非常に高いレベルにあると思われる。派手な広報・宣伝は行っていないが、若い人を中心にこの公園への評価がSNS等で広まっており、外国人の来訪も見られる。

一般の人には、現代アートはなかなか理解が難しいが、この山上公園は、四季折々の自然が美しい公園としても楽しめる。さらには、所長の曾良氏と夢創の里の西田氏が、この公園や各作品について、その意味や鑑賞方法などについて、詳しく面白く解説することができるため、ガイドツアーを実施すれば、現代アートの愛好者だけでなく、一般の人にも、十分楽しめる場所となる。

## ③室生寺

「女人高野」として知られる室生寺は、多くの仏像や五重塔などの建造物が、国宝や国の重要文化財に指定されており、古くから現代に至るまで多くの参詣者が訪れるが、そうした建造物や仏像は、文化財的価値を知らない一般の人の目で見ても、芸術的価値を感じる美しさを有している。

この室生寺と山上公園をともに巡ることで、新旧のアートを鑑賞できることは、室生の魅力となり得る。

## ④妙吉祥龍穴

龍神が住むと言われる妙吉祥龍穴は、パワースポットとしても知られ、若い世代にも魅力ある場所となっている。パワースポットを訪れる人たちは、自然の力に対する畏敬の念がある人たちでもあり、自然の驚異について科学的に解説するエコツアーにも関心を示すことが期待できる。他にも室生地域には、池や湖、名水など、水にまつわるスポットが沢山あり、それらをつなぐ中心的かつ象徴的な場所となり得る。

## ⑤竜王ヶ淵

あまり大きくはない池ではあるが、静かな水面に周囲の景色が映えて、美しい景色を絶えず演出する場所である。周囲には、地元の方々の尽力により、遊歩道も整備され、ゆったりとした時間を過ごすのに適している。

## ⑥深野集落

地元の活動組織「深野〇〇会」を中心に、ササユリの保全に留まらず、集落の農村景観の保全や、「千本杵」などの伝統行事の継承に取り組むと同時に、それら

を活かした都市住民との交流も行っており、これら地元の自然や文化を素材としたエコツアーを実施する素地ができていると言える。

#### ⑦東海自然歩道、室生古道、その他ウォーキングコース

今回は視察することはできなかったが、上記の資源なども巡りながら、芸術、水、パワースポットなどをテーマとしたウォーキング・ガイドツアーも、魅力的なものとなり得る。

### 3) アドバイス（講義等）の概要

#### ①講演・意見交換会

講演・意見交換会では、日本や世界のエコツアーの事例を紹介しながら、「エコツーリズムとは何か」を説明した。そして、エコツアーを提供するためには、まず自らがエコツーリズムを体験することが必要であるため、関西周辺でのエコツアーに参加してみることを提案した。

また、エコツーリズムは三要素（観光、環境保全、地域振興）からなり、いずれも欠くことができないことを強調するとともに、エコツーリズムのノウハウから入るのではなく、エコツーリズムの目的と目標をしっかりと地域自らが設定して共有することの重要性を説いた。その際には、日本全体と室生地域の人口推計のグラフを提示し、今後も避けられない人口減少傾向の中、エコツーリズムに過大な期待をするのではなく、実現可能な目的を設定する必要性を説明した。さらに意見交換をしながら、参加者各自が、エコツーリズムを行う目的を考えてみるきっかけをつくった。

エコツアーづくりの考え方としては、地域が自分たちの都合で提供したいものを提供するのではなく、お客様が誰かを考え、そのお客様のニーズを考える“お客様目線”への発想の転換が必要であることを示した。また、具体的に室生地域の地理的な誘客環境（誘致圏・競合圏）を示した。

エコツアーガイドは、「地域の宝」を「お客様」が知って、楽しめるように、解釈し、演出し、加工して、つなぐ役割であることを示した。また、エコツアーづくりの重要な二つのポイントとして、「お客様に伝えたいことは何か?」「お客様に楽しんでもらいたいことは何か?」を挙げ、そこから派生する各種のポイントを示した。

#### ②ワークショップ

エコツアーの素材となる地域の宝を掘り起し、地域で共有するための道具として、お宝マップとフェノロジーカレンダー（季節暦）をつくる作業を、一とおりにやってみた。参加者には、地図に落としてみて初めて気付く地理的關係や地形などもあったようだ。また、今後、さらに地元のお年寄りなどに、加筆してもらえることが沢山ありそうなので、継続して作成していくこととなった。

### ③エコツアー実施講習

既に夢創の里で提供している田植え体験のプログラムを、実際の形でやってもらうことで、エコツアーとして必要な細かなポイントをアドバイスし、質が高いエコツアーづくりに向けての方向性を実感して把握して頂いた。

### ④その他、視察・ヒアリング等を通じて

#### ア. トップランナーづくり

- ・特定の地域や場所だけではなく「室生地域全体を巡れるようにしたい」「室生地域全体が活性化するようにしたい」という意見が、複数の方々から寄せられたが、いきなり広い範囲の地域全体を巡れるようにするのは難しく、全体を一度に活性化するのも難しい。
- ・地域全体を対象とするのは、最終的な目標としては考えるべきだが、まずは、室生のトップランナーとなるエコツアーをつくり、一つでも成功例をつくるのがポイントである。一つ成功すれば、それに倣ったり学んだりすることができるし、後に続こうという動きが自然と出て来る。そうしたことを積み重ねれば、自然と地域全体が浮上していく。

#### イ. 有料のエコツアーを

- ・「自分だけがガイドして儲けたくはない」という意見もあったが、これも同様に、まずお金を稼げるツアーを一つでもつくるのがポイントとなる。ボランティアツアーとして人を集めてしまうと、他の人は有料でツアーを実施できなくなるし、無料では長続きしない。後継者も出て来にくくなる。ガイド料を受け取りたくない場合は、夢創の里など活動団体の運営資金として預ける方法もある。地域にできるだけお金を落とし、地域の自然や文化を守る人が生活していけるようにすることが、エコツーリズムの目的の一つであるならば、エコツアーは有料とすべきである。

#### ウ. お客様目線になるためには

エコツアーに参加もせずに、エコツアーをつくることはできない。お客様目線になるためには、まず自分が他地域でのエコツアーに自腹で参加してみて、実際にお客様として楽しんだり、不満を感じたりすることが必要である。それでも、自分と違う世代や違う地域のお客様の気持ちになれないこともある。その場合は、自分の家族や友人・知人などで、都会に住む人に、室生でのエコツアーの企画を見てもらい、意見を聞くと良い。そうやってお客様の気持ちになり、お客様の目線を身に着けることで、ツアーのテーマや内容、チラシの作り方などの情報発信のポイントも、自然と分かって来る。

#### 4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

エコツーリズムに取組始めたばかりであり、「全体構想」については、実感を持って必要性の有無を判断することは難しいと思われた。法的根拠に基づく地域資源の保護措置や立ち入り制限が、喫緊に必要な場所は、現段階では特に思い当たらないようである。環境省を通じた広報や特定事業者によるツアー参加者の送迎についても、まだエコツアー商品の開発も行っていない現段階では、すぐに必要な状況にはないと思われる。

#### 5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

室生地域は、従来からの有名な観光資源である室生寺だけでなく、前述のように室生山上公園芸術の森をはじめとした魅力的な資源がいくつもあるが、まだ十分に活かしきれていない。逆に言えば、それらの魅力的な資源を、本来、楽しんでくれるはずのお客様のところに十分に届けられていない。これは地域にとっても、まだ見ぬお客様にとっても、非常にもったいない。

夢創の里のスタッフ、向淵地区や深野地区の活動グループの皆さんをはじめ、多くの熱意と意欲を持った地域の皆さんが、日々、数多くの活動を熱心にされており、今までは地域の自然や文化を守り育てるところを主眼とされていたと思うが、今後、その輪をさらに広げ、担い手を増やしていくためには、そうした資源を守りながらも、活用し、他地域のお客様にも楽しんでもらうことが必要になるとと思われる。

そのために、効果的に地域とお客様をつなぐのが、エコツーリズムという道具である。3日間、何度も強調したことだが、何が伝えたいテーマで、どういうお客様を対象（ターゲット）にし、お客様に何を楽しんでもらいたいのかを明確にすれば、素晴らしいエコツアーが沢山できる。

ただし最初は、大きな負担がかからないように、必ずしもエコツアーの新規開発を急ぐ必要はない。無理のない範囲で、まずは既存の体験プログラムを少しずつエコツアー化したり、夢創の里以外の地域のグループや人材の魅力の引き出し役となったりするなどして、少しずつ実践を積むこともできる。

エコツーリズムに必要な、地域の宝や熱意ある人材は、既に十分にそろっているため、エコツーリズムの方法を身に着けていけば、室生地域のエコツーリズムの成功は、ほぼ確実であると感じた。